

## サノックスの目安箱 「コロナと私」



第 027 号 2020 年 10 月 19 日 名取由美子

### 子供たちの未来に今思うこと

私は高等学校で教師をしています。コロナ禍の中、6月から授業がスタートし、何とか一学期を終え、二学期に入りました。生徒たちは体育祭、文化祭、修学旅行も中止で、ひたすら授業というハードな日々を送っています。今年は夏休みが短いせいでちっとも夏休み感がなく、ワクワクするような予定もありませんでした。

コロナは本当に大変です。いつになったら明るい希望の光が差すのでしょうか。モチベーションが下がりっぱなし。消毒、マスクだけには神経がとんがっています。学校ではオンライン授業が進められましたが、一方通行で生徒にとってどれだけ理解できたのか疑問です。生徒にウイルス戦争であると話をしました。目に見えないウイルスと人が戦っていかなければならない。そのためには、マスク、消毒、検温、三密を避けることが大切であること。自分の身は自分で守るという当たり前のことが、今ほど身にしみるときはありません。

でもそんな中、生徒にとってかけがえのない場所である学校の存在は大きいです。勉強は、教室が一番です。直接教師にわからないことは相談できます。又友達同士で教えあったりするのは、学校です。何よりも友達とおしゃべりしたり、部活で一緒に汗を流したり、励ましあったりする場は、学校です。子供は学校で育てられるのです。そんな場所が、又休校になることは、私にとってとても心配です。

コロナは収束していません。これからはコロナと向き合いながら自粛生活を乗り切らなければなりません。安心して生活ができる日が、早く来ることを願って、我慢、我慢。うつりたくない、うつしたくない、の一心で日々を過ごさなければと思っています。コロナに気をつけながら無事二学期が過ごせることを願うばかりです。

名取由美子（高等学校家庭科教員）